

<p>1 学校教育目標</p> <p>21世紀をたくましく生き抜くために、「生きる力」を身につけた児童の育成を図る。</p>
--

<p>2 学校経営ビジョン</p> <p>【めざす児童像】 「よく考え、進んで学ぶ子ども」「素直で、思いやりのある子ども」「心と体を鍛え、最後までやり抜く子ども」 「学校やふるさとを愛する子ども」 【めざす学校像】 「喜びのある学校」「安らぎのある学校」「活気のある学校」「地域と共に歩む学校」 【教師の姿】 ・日々の授業を大切にしている教師 ・児童一人一人を大切にしている教師・研修に励み、自らの資質を高める教師 ・地域社会の信頼に応えられる教師 【家庭の姿】 ・さわやかな挨拶ができる明るい家庭 ・共に学び、向上しようとする家庭 ・しつけのできる、規律のある家庭 ・家族にとって安らぎのある家庭</p>

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>1 学力向上 - 学力向上「3気」運動の徹底 『やる気・本気・根気』(やる気を出して、本気で取り組み、根気強く続ける) ・学習習慣の確立・基礎基本の学力伸張・個に応じた指導の工夫 ・音読読書の奨励・校内研究の充実</p> <p>2 豊かな心の育成 - 心の教育「3あ」運動の徹底 『あいさつ・ありがとう・あと始末(くつ・スリッパ並べ・ごみ0)』 ・道徳的実践力の育成 ・「人権・同和教育」の徹底 ・豊かな体験活動の推進 ・特別支援教育の充実 ・母校愛、郷土愛の育成</p> <p>3 健康でたくましい体づくり ・体力、運動能力の向上・生涯スポーツの推進・食育の推進</p> <p>4 家庭・地域・関係機関との連携 ・家庭との連携 ・地域との連携 ・保、小、中との連携</p>	<p>・「心の教育」については、道徳授業の工夫充実を目指し、各学級で取り組んでいる道徳教育の情報提供や「命」をテーマとした授業公開を行った。保護者や児童を対象としたアンケートでは、良好な結果を得た。「ふれあい道徳」授業公開では、出席率78.8%(219名)で目標の80%には届かなかったが、出席率が昨年よりも6%伸びがあった。このことは町内に案内を回覧し、町民の皆さんにも参加を呼びかてきた結果だと評価している。今年度もさらに町民の皆さんが参加して下さる方策を工夫する必要がある。</p> <p>・「学力向上」については、学校に求められる最重要課題である。特に漢字検定テストでは教師と児童が一体となって取り組み満足できる結果(合格率90%)を得ることが出来た。しかし、読解を要する問題や文章問題、順序立てて考えるような問題には全体的に落ち込みが見られ、指導方法の工夫が求められる。そこで、本年度は学力テストの数値を上げることはもちろんであるが、落ち込みが見られた国語科の「話す・聞く」「読む」領域の指導を中心に児童の「学習態度の育成」と教師の「授業力アップ」の二本柱を掲げてレベルアップを図る。</p> <p>・「食育の推進」に本年度も重点課題として焦点を当て取り組んできた。朝食摂取率についても90%を超えており、食育の授業についても各学級年2回は実施できた。また、養護教諭を中心に食育に関して情報発信も行い、保護者への周知に努めたことが好結果になったと思われる。さらに「食育」の推進については、市の栄養教諭にも助言を得ながら、望ましい朝食に絞る育友会の母親委員会や町内婦人会の支援をいただき、保護者(特に母親)へ啓発していく体制作りにも努める。</p>

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	学校経営方針	学校経営方針の周知度 重点目標の周知度	教職員・児童・保護者に周知する。 認知度を85%以上にする。	・職員会議、全校朝会、掲示物等を活用し教職員、児童に繰り返し周知していく。 ・学校だより、育友会総会、懇談会等で具体的な取組を説明し、保護者への周知徹底を図る。
	危機管理体制の整備	危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルを再点検、再確認し、各職員の役割を徹底する。 ・職員の防犯、安全に関わる研修を年1回以上実施する。 ・新型インフルエンザ・光化学オキシダントの素早い対応を図る。	・関係機関やスクールガードリーダー等の指導を受け、不審者対応等適切に対応できるように努める。 ・不審者対応・新型インフルエンザ等、学校だよりや保護者会等で児童の安全について周知する。
	開かれた学校づくり	開かれた学校づくりの推進	・授業参観の出席率80%以上を目指す。 ・祖父母や地域の方の行事や授業参観への年間参加者40人をめざす。 ・子どもの様子や学校のことについての認知度80%を目指す。	・授業参観については、学校だより、学級だよりで保護者に連絡する。必ず次回の期日についても記述する。 ・学校だよりや案内状を町内に回覧板で回す等広報活動を実施する。

	教職員の指導力の向上	教職員の授業力の向上	・授業公開100%、研究授業50%を目指す。 ・指導技術、方法、学級経営に関する研修を年1回実施する。	・校内研修の取組として、全員が授業を公開し、指導技術を高める。 ・夏季休業中に指導技術等に関する研修会を実施する。
教育活動	学力向上	国語・算数の授業研究会を充実し、学力アップを目指す。 学習意欲の向上と学習習慣の定着	・標準学力検査(CRT)において、国語・算数の昨年度比、+2ポイント向上させる。 ・伊万里市漢字検定テストの合格率95%をめざす	・国語・算数において、校内研修の充実とドリルタイム、少人数授業やTT授業の充実音読集、漢字検定テスト等を活用し、学力の向上を図る。 ・家庭学習(宿題)ができる子ども90%をめざす。 ・チャイム着席・次の学習の準備ともできる子ども95%をめざす。
	心の教育	道徳授業の工夫・充実 集会等利用しての「心の教育」推進	学校だより、学級だよりで保護者・地域に情報提供を行うと共に、「命」をテーマとした全校一斉授業を公開し、80%の出席率を目指す。	・ふれあい道徳の日を設定し、「いのちの教育」指導資料等を活用した授業実践を行い、児童の心を耕すように努める。 ・全校集会で校長及び道徳主任を中心に話をとおして、豊かな心を育む。
	健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・家庭との連携による朝食をきちんと取って登校する児童を90%以上にする。 ・食育の授業を年2回以上実施する。 ・外遊びの奨励	・養護教諭や栄養教諭等との連携を図りながら、食育の年間計画を作成し、計画的に「食」の指導する。 ・給食を残さず食べる児童95%をめざす。 ・保護者への情報発信(保健便り等)を行い保護者への周知に努める。
	特別支援教育	特別支援教育体制の充実	・校内支援委員会の定期的な開催と適切な運営。 ・年3回の校内研修会の開催。	・特別に支援を要する児童の個別支援計画作成と適切な対応 ・連絡会を定期的実施し、全教職員共通理解のもと該当児童の指導にあたる。 ・スクールアドバイザーと連携を密にし、保護者の相談にも積極的に対応する。
	ふるさと学習	郷土理解	・ふるさと二里が好きだといえる3年生以上の児童を80%にする。	・教科、総合的な学習の時間を活用し、「ふるさと二里」について学習を展開する。 ・花作り等として、体験活動の計画的な推進と充実を図る。
	安全教育・防犯教育	安全教育・防犯教育の推進	・児童を対象とした訓練を年3回以上実施する。 ・各教室での安全教育、防犯教育の授業を年2回以上は実施し、児童の安全に対する意識を高める。	・危機管理マニュアルに沿った児童に関する訓練を計画的に実施する。 ・スクールガードリーダー等の外部講師を招き、授業や研修の充実を図る。
特定課題	小学校低学年の学習環境改善充実	家庭との連携による基本的な生活習慣・学習習慣の育成、定着	・元気のよい返事や挨拶、学習用具の準備と後始末、話を最後まで聞く、早寝早起きの習慣化、家庭学習の習慣化の5点を徹底させ、90%以上の定着を目指す。	・学級便り、連絡帳、懇談会「のびっ子ノート」等をおして家庭と連携を取り合い、生活・学習の習慣化に努める。 ・定期的に形成的評価を行い、現状と今後の指導について検討する。
	家庭教育力の向上	望ましい生活習慣の確立	・朝の挨拶をきちんとする。 ・朝ご飯をきちんと食べてくる。 ・家庭学習をきちんとする。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーを推進する。 それぞれの項目について、定着率80%以上を目指す。	・「のびっ子ノート」(毎月第2週目)を有効に活用し、保護者と連携しながら進めていく。 ・ノーテレビ・ノーゲームデー(毎月第1火曜日)については、案内を出し保護者に協力を求めていく。
	保・小・中との連携	保・小・中連携の充実	・保育園とは年2回連絡会を開催し、児童の情報交換を行う。 ・三校連絡協議会を実施し、相互授業参観、交換授業年1回以上実施する。	・保育園とは基本的な生活習慣の行動様式の共通化を図る。 ・中学校とは、基本的な学習習慣の共通理解を図る。 ・生徒指導上の情報を交換し、指導の共通化を図る。

県共通評価項目 伊万里市共通評価項目 独自評価項目

6	総合評価

7	次年度への課題・改善策
---	-------------

